協定の附属書の修正に関する交換公文──責任に係る相互放棄に関する日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の◎平和的目的のための宇宙の探査及び利用における協力のための損害賠償

(略称) 米国との宇宙損害協定附属書修正取極

米国側書簡	目次				
			平成	平成	平成
			八年	八年	八年
			七月	四月	四月
			八日	三日	三日
	ペリンジ	(外務省告示第三〇二号)	告示	効力発生	ワシントンで

(平和的目的のための宇宙の探査及び利用における協力のための損害賠償責任に係る相互放棄に関する 日本国政府とアメリカ合衆国政府との間の協定の附属書の修正に関する交換公文)

(日本側書簡)

協定の附属書をこの書稿に添付されている附属書のように改めることを日本国政府に代わって提案する光栄 メリカ合衆国政府との間の協定(以下「協定」という。)に言及するとともに、協定第二条の規定に基づき、 的のための宇宙の探査及び利用における協力のための損害賠償責任に係る相互放棄に関する日本国政府とア 書簡をもって啓上いたします。本使は、千九百九十五年四月二十四日にワシントンで署名された平和的目

案する光栄を有します。 下の返簡が両政府間の合意を構成し、その合意が閣下の返簡の日付の日に効力を生ずるものとすることを提 本使は、更に、前記のことがアメリカ合衆国政府にとって受諾し得るものであるときは、この書簡及び閣

本使は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。 千九百九十六年四月三日にワシントンで

アメリカ合衆国駐在

日本国特命全権大使に代わる 渋谷実

アメリカ合衆国国務長官

ウォーレン・M・クリストファー閣下

(Japanese Note)

Translation

Washington, April 3, 1996

Excellency,

Annex attached to this Note. (hereinafter referred to as the "Agreement"), and to propose, on behalf of the Government of Japan, that, pursuant to the provisions of Article 2 of the Agreement, the Annex to the Agreement shall be replaced by the for Cooperation in the Exploration and Use of Space for Peaceful Purposes, signed at Washington on April 24, 1995 I have the honor to refer to the Agreement between the Government of Japan and the Government of the United States of America Concerning Cross-Waiver of Liability

I have further the honor to propose that, if the foregoing is acceptable to the Government of the United States of America, this Note and Your Excellency's Note in reply shall constitute an agreement between the two Governments, which will enter into force on the date of Your Excellency's reply.

highest consideration. Accept, Excellency, the renewed assurances of my

and Plenipotentiary of Japan, For the Ambassador Extraordinary

(Signed) Minoru Shibuya

The Secretary of State of the United States of America Mr. Warren M. Christopher His Excellency

Annex

## 附属書

	_	第三条1(aにしご機関
	第二条の対気に従る協党カ連月されて共同治・	日本
1	地球観測プラットフォーム技術衛星(ADEOS)計画	宇宙開発事業団
2	宇宙飛行士訓練計画	宇宙開発事業団
3	マニピュレーター飛行実証試験計画	宇宙開発事業団
4	熱帯降雨観測衛星(TRMM)計画	宇宙開発事業団
5	環境観測技術衛星(ADEOSI)計画	宇宙開発事業団
6	資源探査用将来型センサー(ASTER)計画	通商産業省
7	超長基線電波干渉計宇宙天文台計画(VSOP)	宇宙科学研究所
8	放射線実時間計測装置(RRMD)計画	宇宙開発事業団
9	微小重力科学実験室(MSL)計画	宇宙開発事業団
10	神経科学実験室(NEUROLAB)計画	宇宙開発事業団

(訳文)

書簡をもって啓上いたします。本長官は、本日付けの閣下の次の書簡を受領したことを確認する光栄を有

(日本側書簡)

簡の日付の日に効力を生ずるものとすることに同意する光栄を有します。 政府に代わって確認するとともに、閣下の書簡及びこの返簡が両政府間の合意を構成し、その合意がこの返 本長官は、更に、前記のことがアメリカ合衆国政府にとって受諾し得るものであることをアメリカ合衆国

本長官は、以上を申し進めるに際し、ここに重ねて閣下に向かって敬意を表します。

千九百九十六年四月三日にワシントンで

アメリカ合衆国

国務長官に代わる アン・K・ソロモン

(米国側書簡)

Excellency,

(U.S. Note)

Washington, April 3, 1996

I have the honor to acknowledge the receipt of Your Excellency's Note of today's date, which reads as follows:

"(Japanese Note)"

I have further the honor to confirm on behalf of the Government of the United States of America that the foregoing is acceptable to the Government of the United States of America and to agree that Your Excellency's Note and this Note in reply shall constitute an agreement between the two Governments, which will enter into force on the date of this reply.

Accept, Excellency, the renewed assurances of my highest consideration.

For the Secretary of State:

(Signed) Anne K. Solomon

and Plenipotentiary of Japan to the United States of America Ambassador Extraordinary His Excellency Mr. Kunihiko Saito

アメリカ合衆国駐在

日本国特命全権大使 斉藤邦彦閣下

米国との宇宙損害協定附属書修正取極

二一四七

(参考)

照)の附属書を修正するものである。 この取極は、平成七年四月二十四日に署名された米国との宇宙損害協定(平成七年二国間条約集参